

製品・サービス動向-国内

■新日鉄住金ソリューションズ：クライアント仮想環境での「Skype for Business Online(音声・ビデオ通話)」の利用を「M³DaaS@absonne」サービスとして提供開始
(5月24日)

新日鉄住金ソリューションズ株式会社 (<http://www.nssol.nssmc.com/>) (東京都中央区)は、クライアント仮想環境での「Skype for Business Online(音声・ビデオ通話)」の利用を「M³DaaS@absonne(エムキューブダース@アブソンヌ)」のサービスとして提供開始した。

M³DaaS@absonneは、「いつでも、どこでも、どんな仕事も、どんなデバイスからでも」オフィスと同様の業務環境をセキュアに提供する仮想化ソリューション。2011年のサービス提供開始以降、大企業を中心にすでに多くの企業に採用され、国内DaaS市場4年連続シェア1位を獲得している。

Skype for Business Onlineなどの音声・ビデオ通話はクライアントPC間の通信となるが、DaaS/VDI環境では経路が複雑化し遅延や切断が発生するなどの課題があり、音声・ビデオ通話をDaaS/VDI環境で利用することは、アーキテクチャー上、難しいと考えられていた。そこで、新日鉄住金ソリューションズは、その課題を解決するためにCitrix社の「Xen Desktop」および「HDX RealTime Optimization Pack」を採用し、DaaS/VDI環境でSkype for Business Onlineを実用的に利用できる仕組みを確立した。このXen Desktopを活用したDaaSサービスであるM³DaaS@absonneによって、場所や利用するデバイスにとらわれない安全な業務環境を提供する。

第一号ユーザとして、株式会社資生堂 (<http://www.shiseidogroup.jp/>) (東京都港区)の従業員約3,400ユーザ向けにサービス展開をしている。資生堂は、2011年よりクライアント環境をM³DaaS@absonneに移行し、クライアント端末管理に関わるITシステムのフルアウトソーシングにより社員の生産性向上やPCの運用負荷軽減を実現。また働き方改革の新たな取り組みとして、2014年よりSkype for Business Onlineを導入しプレゼンスなどの一部機能の利用を開始している。この度、M³DaaS@absonneでWeb会議機能(音声・ビデオ通話)の利用も開始した。

■アイ・ティー・エックス：Web会議サービス「MORA Video Conference」がバージョンアップ、映像150拠点を並べての大型会議対応、ハード型テレビ会議連携の改良など



MORA Video Conference(アイ・ティー・エックス)

(5月22日)

アイ・ティー・エックス株式会社 (<http://www.itx-corp.co.jp/>) (横浜市西区)は、

Web 会議サービス「MORA Video Conference」の新バージョン Ver14.0(ASPモデル、6月22日提供開始)と Ver14.0i(サーバ導入モデル、8月出荷予定)を販売開始する。

MORA Video Conference は、ネットワーク環境とブラウザがあれば利用可能な Web 会議サービス。初期投資を抑えて手軽に運用開始できる、CD 並みの高品質な音声などが特長で、月額 3,240 円/ID 定額制の ASP モデルと、カスタマイズが可能なサーバ導入モデルの 2 パターンを提供している。

主なバージョンアップ内容は、二つある。

(1) 最大 20 拠点まで参加可能であった従来の会議室に加え、今回の新バージョンで 30 拠点から最大 150 拠点まで同時に参加可能な大型会議室を追加する。大型会議室では、最大 5 人まで同時に発言することが可能となっている。

(2) MORA Video Conference の会議室に入室している参加者から、他社製ハード型テレビ会議端末の呼出しができるようになった。その際に、テレビ会議端末側で、相手映像が 4 人まで表示することが可能となっている。また、ハード型テレビ会議端末の音質が改善される。さらには、ハード型テレビ会議端末が多人数モード会議室に入室可能になった(オプション)。

以上の他、音声デバイス操作連携機能の追加、エコーキャンセラ設定変更、アプリケーション共有機能の改良を行った。

■リコー：「RICOH Interactive Whiteboard」の新製品 2 機種を発売、テレビ会議システムとの連携も強化

(5月25日)

株式会社リコー (<http://www.ricoh.co.jp/>) (東京都中央区) は、「RICOH Interactive Whiteboard」の新製品 2 機種を発売。テレビ会議システムとの連携も強化している。



RICOH Interactive Whiteboard D6510 (リコー)

新製品は、画面サイズが 65 インチの「RICOH Interactive Whiteboard D6510」と、55 インチの「RICOH Interactive Whiteboard D5520」の 2 機種。

2015 年に発売した前身機と比較して、新製品の 2 機種の特徴は以下の通り。

(1) USB ポートの数を 8 ポートに増設し(前身機は 1 ポート)、USB ポートからの電源供給が可能になった。(2) 新たに Bluetooth 機能を搭載し、Bluetooth に対応したスピーカーやマイクを合わせて利用できるようになった。(3) RICOH Interactive Whiteboard D5520 は、前身機ではパネルへの書き込みは専用の電子ペンのみ対応していたが、新たに指やタッチペンでの書き込みもできるようになった。

以上によって、現在発売中の 84 インチタイプの製品と合わせて、RICOH Interactive Whiteboard シリーズは、全機種で共通の操作性と機能を備え、顧客の用途に応じて好みの画面サイズから選択できるように

なった。

標準機能に対してオプションのコントローラーを装着することで、多彩な描画編集、異なる拠点との遠隔画面共有、作成したファイルのメール送信などを実現。テレビ会議システムとの連携も強化し「RICOH Unified Communication System」やマイクロソフト社の「Skype for Business」に対応している。セキュリティの面においては非接触 IC カードを用いたり個人認証システム AE2（別売）に対応。認証ユーザのメールアドレスを取得してファイルを送信するなど操作性も向上している。

発売は 6 月 12 日。価格はオープン。会社によると目標販売台数は年間 1,500 台。

ビジネス動向-国内

■ドコモ・システムズと NEC：クラウド型企業情報システムおよびクラウド型 Web 会議サービスで代理店契約を締結

(5 月 30 日)

ドコモ・システムズ株式会社 (<https://www.docomo-sys.co.jp/>) (東京都港区) と日本電気株式会社 (<http://jpn.nec.com/>) (東京都港区) は、ドコモ・システムズのクラウド型企業情報システム「dDREAMS (ディードリームス)」およびクラウド型 Web 会議サービス「sMeeting (エスミーティング)」の販売に関する代理店契約を締結した。

dDREAMS は、ドコモグループ内の共通情報基盤として 15 年以上にわたって自ら開発・最適化を繰り返し、グループのセキュリティ向上、業務効率化、働き方改革を実現してきた企業情報システム。NTT グループも含む 22 万ユーザに利用されている。

一方、sMeeting は、1 対 1 のコミュニケーションから大規模会議まで対応した、コモ・システムズが提供するクラウド型 Web 会議サービス。聞き取りやすく途

切れにくい Opus コーデックを採用し、端末にデータを残さない高度なセキュリティ設計となっている。1 ライセンスあたり月額 2,000 円から利用可能となっている。同時接続制であるため、会議室や利用者を限定せず、使いたいときに自由に会議を開催できる。

sMeeting は、ドコモグループでの利用や NTT グループへの導入を通じて培った経験とノウハウをもとに高品質で低コストなサービスが特長という。

ビジネス動向-海外

■ポリコム社と Zoom 社：ビデオ会議ソリューションの連携でパートナーシップを締結、「Zoom Connector for Polycom」を提供

(米国：5 月 25 日)

ポリコム社 (<http://www.polycom.com/>) (米国・カリフォルニア州) とクラウドサービスの Zoom 社 (<https://zoom.us/>) (米国・カリフォルニア州) が両社のビデオ会議ソリューションの連携でパートナーシップを締結した。

ポリコム社と Zoom 社は「Zoom Connector for Polycom」を提供する。Zoom Connector for Polycom により、「Polycom RealPresence Debut」と「Polycom RealPresence Group シリーズ」ビデオ会議システムから、シングルタップでポリコムのタッチスクリーンが会議室へ入れ、モバイル・デスクトップ、ルームシステムなどさまざまなデバイスとの会議が行える。HD ビデオと HD 音声に対応しワイヤレススクリーン共有も行える。アウトルック・ゲーグルカレンダー・iCal インテグレーションに対応している。

両社はお互いの製品・サービスの拡販につなげたい考え。Wainhouse Research 社 (<http://cp.wainhouse.com/>) シニアアナリスト & パートナー Ira M. Weinstein 氏は両社の顧客にとって

メリットの大きいパートナーシップと評す。

導入・利用動向-国内

■VTV ジャパン：門永水産、テレビ会議接続クラウドサービス「LifeSize Cloud」導入、スピード感のあるビジネス展開が実現

(5月12日)

VTV ジャパン株式会社 (<https://www.vtv.co.jp/>) (東京都千代田区) は、株式会社門永水産

(<http://www.kadonaga.com/>) (島根県境港市) へ、ライフサイズ社のテレビ会議接続クラウドサービス「LifeSize Cloud」を販売したと発表。

門永水産は、紅ズワイガニの水揚げで知られる島根県境港市に本社を置く企業。1953年に創業して以来、一貫して蟹や魚の加工品を製造・販売している。

同社はこれまで、本社(鳥取県)や支社(兵庫県)、営業所(東京都)にいる社員の共有を行うため毎月定例会を行ってきた。

しかし本社に集まって会議をするというスタイルでは、情報を共有するまで、最長1カ月のロスタイムが生まれ、スピード感のあるビジネス展開は困難であることから、遠隔地からでも会議が行えるコミュニケーションツールの導入を検討した。

製品選定の際には、複数のベンダーから検証機を借り、実機でテストを行った。結果、映像と音声が高品質であったことが決め手となり、テレビ会議接続クラウドサービス LifeSize Cloud とテレビ会議専用機

「LifeSize Icon600」を導入。

導入により、社員間の情報共有が推進されビジネス上の判断も迅速に行えるようになった。また、会議に参加するための出張費が不要となったほか、移動にかけていた時間に、他の業務を遂行できるようになるなど、コスト削減とともに業務の生産性が向上した。

事例：<https://www.vtv.co.jp/casestudy/list/kadonaga.html>

市場動向-国内

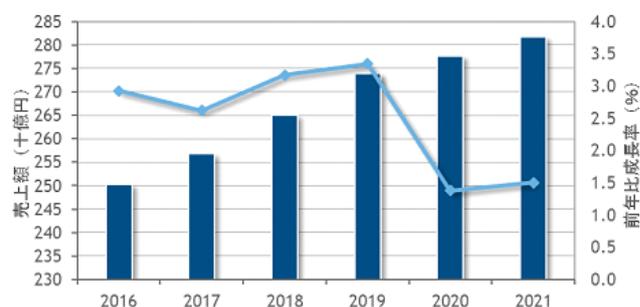
■IDC Japan：国内 UC&C 市場予測を発表、2016 年国内市場規模は前年比成長率 2.9% 増、2,502 億 9,400 万円

(5月29日)

IT 専門調査会社 IDC Japan 株式会社

(<http://www.idcjapan.co.jp>) (東京都千代田区) は、国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション (UC&C) 市場を調査し、2016 年の同市場の分析と 2017 年～2021 年の市場予測を発表。

IDC では UC&C 市場を、「IP テレフォニー市場」「コラボレーティブアプリケーション市場」「IP コンファレンスシステム市場」「IP コンタクトセンター市場」の 4 つのソリューション市場に分類して、それぞれの市場について分析と予測を行っている。



国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション (UC&C) 市場 売上額予測：2016 年～2021 年 (IDC Japan)

2016 年の国内 UC&C 市場の規模は、前年比 2.9% 増の 2,502 億 9,400 万円。2015 年までの企業のインフラのリプレイス需要が一巡したことで IP テレフォニー市場がマイナス成長となり成長率が鈍化した。また、コラボレーティブアプリケーション市場と IP コンファレンスシステム市場でのクラウド成長によって、同市場は前年比プラスの成長を維持した。一方、IP コンタクトセンターシステム市場は、大型案件の検討長期化によって成長が鈍化した。

2017 年の国内 UC&C 市場は、前年比成長率 2.6% 増と、2016 年並みの成長を予測している。これは、2016 年の市場拡大要因であった、コラボレーティブ

アプリケーション/IP コンファレンスシステム市場の高成長の反動を予測していること。

2017年以降の同市場は、ラグビーワールドカップ東京大会や東京オリンピック/パラリンピックに向けた、音声基板再構築、インバウンド顧客サポートへの投資、Web会議などコラボレーティブアプリケーションのクラウドシフト（SaaS型サービス）が一層進むと見ている。そのため、2016年～2021年の年間平均成長率（CAGR）は2.4%で成長し、2021年には2,818億1,500万円の規模になると予測している。

また、2019年～2020年の上記国内イベント向け先行投資として、2018年～2019年の同市場は3%以上の成長を予測しているが、2020年～2021年は、オリンピック開催後に一時利用クラウドサービスの解約や先行投資の反動によって成長率が鈍化すると予測している。

今回の発表は「国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション市場予測、2017年～2021年」（JPJ41779517）に詳細が報告されている。報道関係は同社マーケティングへ、一般の方はセールスへ。

PR

（広告掲載順）

■ヤマハ株式会社

USB スピーカーフォン FLX UC 500

http://jp.yamaha.com/products/communication/revolabs/flx_uc_500/

■中古テレビ会議.com

まだまだ使える綺麗な中古のテレビ会議システムが格安で手に入ります。

<http://chuko-tv-kaigi.com?cnar=05312>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報（6月から7月）

「失敗しない「Web会議」、「テレビ会議」の選び方徹底解説セミナー」、「従来比1/3のコストで導入できる”V-CUBE Box 体験セミナー」、「ブイキューブロボティクス ドローン業務活用セミナー」など

会場（各地）、日時など詳細・申込：

<https://jp.vcube.com/event/all>

■ワークスタイル変革 実践事例セミナー ～コミュニケーション・コラボレーション変革からはじめるワークスタイル変革～

日時:6月23日(金) 10:00～17:00

会場：リコージャパン株式会社 ViCreA 東京ショールーム
（東京都中央区）

主催：株式会社リコー

（オフィスサービス事業本部 商品戦略センター）

詳細・申込：<http://www.rioh.co.jp/event/seminar/17K105.html>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々配信し皆さんと共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter (CNA レポート・ジャパン)

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト (dte-forum)

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年:

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2017年:

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作: カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

CNAレポート・ジャパン 2017年5月31日号おわり

ホームページ: <http://cnar.jp> お問い合わせ: cnar@cnar.jp